

漁況予報 い わ し

第194号

【2016年3～4月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、1月は全域で2トンと不漁となり前年(235トン)及び平年^{※1}(95トン)を大きく下回りました。2月は13トン(速報値)で、前年(21トン)及び平年(33トン)を下回りました。

まき網は、相模湾側で1ヶ統が33トンの水揚げがありました。

魚体は、2ヶ月とも被鱗体長^{※2}(以下同)12-13cmの2015年生まれの1歳魚主体でした。なお、漁業調査指導船「江の島丸」が2月12日に三宅島三本漁場でさば資源調査を行った際、17-22cmのマイワシを18kg混獲しましたが、多くの個体が成熟していました。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、1月は10トンで、前年(190トン)及び平年(210トン)を大きく下回りました。2月は105トン(速報値)で、前年および平年(365トン)を大きく下回りました。

鴨居地区及び佐島地区(1ヶ統)のまき網は餌イワシとして断続的に漁獲し、鴨居地区および佐島地区(1ヶ統)で計6.5トンの水揚げがありました。

魚体は、8-10cmの未成魚～小型成魚主体となりました。

【シラス】

前号でお知らせしたとおり、当所ではしらす船曳網漁業連絡協議会の協力により、今年もシラスの禁漁期間中(1月1日から3月10日)に、相模湾内で試験操業を実施しました。1月および2月は全般に前年同期以上の反応があり、特に茅ヶ崎地先ではカタクチシラス主体(全長30mm前半)の反応が広範囲に出現しました。3月の調査では採集水準は落ちていき、春シラス漁に繋がる全長15mmから20mm前半の新仔を殆ど採集することができませんでした。一方で、水温は前年同期よりも1-1.5℃高い14℃台で推移しており、シラスの来遊条件としては昨年よりも良い状況にあります。

また、サヨリ船曳網船の網にシラスが引っ掛かるという情報もあることから、新仔が少ないながら来遊している模様です。

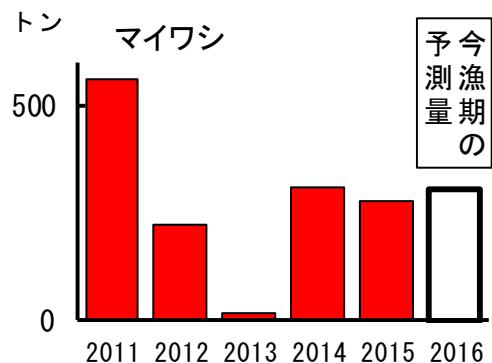
= 予 報 =

過去5年の3・4月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2015年生まれのヒラゴ～小羽マイワシ（12～15cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、太平洋系群の資源量から、前年並の約300トンと予測されます。

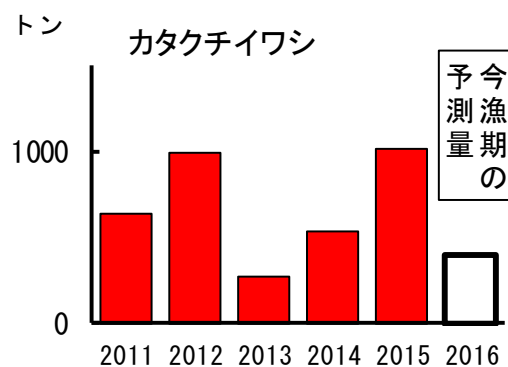


※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、引き続き2015年生まれの未成魚～小型成魚（8～12cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1～2月の県内主要定置網の漁獲量から、前年を下回る約400トンと予測されます。



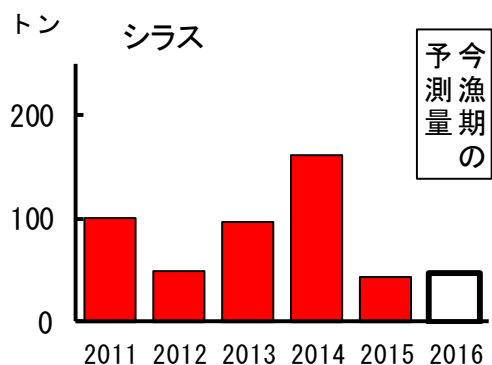
※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【シラス】

今漁期は、2月以降に生まれたカタクチシラス主体の漁となりますが、3月から4月上旬はマシラスが多く混獲されるでしょう。

概況でも書きましたように、相模湾内の水温は昨年よりも高い状況にあり、来遊しやすい環境にあります。

今漁期の漁獲量は、昨年並の約47トンと予測されます。



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046) 882-2312